

令和3年度 第1回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和3年6月30日(水) 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
山岡 拓也 会長、海野 美枝 委員、杉山 昌之 委員、
弓削 幸恵 委員、木村 貴子 委員、堀切 正人 委員、
石亀 雅敏 委員、 上原 薫 委員 (全8名)
(事務局)
本野 雄一郎 文化財課長
文化財課(登呂博物館)
芹澤担当課長兼登呂博物館長、國島主任主事、
中村主任主事、宮崎主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録 1 文化財課長挨拶
2 議事
(1) 令和2年度の事業報告
(2) 令和3年度の事業について
(3) 議題「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方」
- 6 議事内容
- | | |
|---------|----------------------------------|
| 事務局 | 開会 |
| 本野文化財課長 | 開会にあたっての挨拶 |
| 事務局 | 資料確認・事務局職員紹介・司会進行を協議会会長に依頼 |
| 会長 | 議事録の公開の確認・署名者の選任 |
| 事務局 | 令和2年度の事業報告 説明
令和3年度の事業について 説明 |
| 会長 | 委員に対し、質疑があれば発言するよう依頼 |

石亀委員

館長から話のあった不適正経理について、不適切な形であったには違いないが、職員の前向きな展示作業の中、日時も迫っている中で、より良いものを作ろうという結果がそこに触れてしまったということだと受け止めさせていただいた。そういう必要であり前向きな経費については、速やかに職員が対応できるような、環境作りをよろしくお願いしたい。

弓削委員

展示予定の中の企画展で、秋の WOOD について、関連講演会は具体的にどんな方を呼んでいつやるのか、イメージがあればお聞きしたい。私がオクシズの関係で、「森の教室」を担当しており、小学校で林業・製材・ものづくりの授業をやっている。中山間地振興課がオクシズ材について PR をしているため、リアルに連携できたら面白いというのが1つ。2つめとして11月にツインメッセで産業フェアを開催している。色々な産業の中で、林業のジャンルも出されていたので、そこでの広報による登呂の企画展 PR も大切。

事務局

秋の企画展担当の國島と申します。企画展 WOOD について、登呂遺跡では木製品の出土例が結構多い。では、具体的に弥生の人々が木製品をどうやって加工したのか、を紹介したい。関連して実験考古学が大事になってくる。首都大学東京の山田昌久先生をお呼びしたい。そして、中山間地振興課、オクシズとの関連事業の情報提供ありがとうございます。

堀切委員

ドロロン子パークについて、これは時間を決めてその時間の中で自由に遊んでもらうというような内容か。それとも、プログラムのなものがあるか。

事務局

ドロロン子パークについて、昨年度の実施では、平日、土日祝日問わず、水田の一部を泥で遊べる状態にして、特にプログラムというものは設けずに、お子さん

たちに自由に遊んでいただくというような形でやらせていただいた。その中で、田下駄や鍬などを用意し、子どもたちが親御さんと一緒に遊べる、そのような自由度の高いような形にはさせていただいた。今年度に関しては、詳細未定。

堀切委員

非常に可能性を感じる催しと思う。他の博物館の事例を考えると、1つは自由に遊んでもらう、何の制限もなく好きにやっていただくというものと、もう1つは、30分とか1時間のプログラム立てにして何らかの学びができるというプログラム立てたものと、この2本立てでやるパターンがあると、学校や幼稚園に売り込むときに有効であると思う。また頑張っていたら面白いと思う。

プログラムは、歴史的な学びができたり、運動、アートのこと、皆で何かを作るなど、色々なことができると思う。

山岡会長

今回の議題である「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方（シビックプライドの醸成）」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

事務局説明

山岡会長

これまでの協議会での様々な意見を踏まえて、まとめていただいたが、それぞれ意見をいただいた委員の皆さまにもう1回確認していただき、追加修正等をいただいて、より良い答申案になるように、ご意見をお願いします。

私は会議録を見ていて、上原委員に「登呂遺跡を誇りに思う市民を創出する」は、誇りに思う前に親しみの方が先じゃないかということをおっしゃられていて、親しみの個別のことを書いた、この図の中に親しむというのが下に入っていますけど、イメージとしてはこういう感じでよろしいですか。

上原委員

下地としてその場所が好きだ、この土地に愛着がある、楽しい思い出があるとか、好きだという気持ちがあると、学ぶ意欲も湧くでしょうし、関わり続けたいという気持ちも湧くと思います。ここの魅力を発信したいというものが乗っかってくるのではということ、このベースというようなイメージです。

山岡会長

学ぶの例2のところ、博物館が地域に飛び出していると書いてあるが、石亀委員からは、特に高齢者の方を対象に出歩いていった方が興味を示してもらえるのではとおっしゃられていたように思います。例2のところだと、高齢者とは書かれていないが、こういう書き方でよろしいですか。

石亀委員

私が地域の福祉活動の中で、非常に高齢者と接触する機会が多いため、そういう発言になりました。ただ、私が一番残念に思っているのは、博物館が毎年、年間非常にたくさんのいい企画があるにも関わらず、市民にその博物館、職員の皆さんの努力をする形・姿・力が届いていないということです。

そのため、S型サービスなどの場に、博物館が本来持っている魅力、希少な財を繋げていったらどうかというように思っていました。もう1つは、去年行われた学生による吹奏楽のイベント。コロナが明けたら学生たちを使って、もっと地元の市民にここに寄ってもらうというようなことをしていかなければならないなと思っています。企画展のパンフレットはどういうように博物館としては、市民に開示をするのか、届けるのかの工夫が必要。高齢者だけでなく子供たちも含めて、若いお母さん方も含めて、お考えをいただきたいと思っています。

山岡会長

新聞の記事で発信するということはこれまでも博物館の方では結構されてきていることではあると思いますが、新聞に載せてくださいと依頼して載せてもらえるものなのでしょうか。

石亀委員

登呂博物館・登呂遺跡はほとんど新聞に載っていません。

山岡会長

登呂博物館の展示について、駅で広告が出ていたりもして、宣伝はされているように思うのですが。

事務局

新聞はなかなか使い方が難しく、そのときの新聞記者、静岡市の場合だと新聞記者7社くらいに、その企画展の度に渡しています。ただし、記事にするかどうかは、その記者・社の考え方ということでタイミングが悪いと載せられないなど受け身の報道になってしまうこともあります。今後は人の目にするところに、もっと色々なアイデアを絞って、登呂の企画展の魅力などの発信を一生懸命やらせていただくというところのアイデア出しは必要だと思っています。

山岡会長

石亀委員がおっしゃられているのは、催し物の宣伝だけでなく、もう少し遺跡の内容とか、面白さが伝わるような記事が出てくるといいということでしょうか。

石亀委員

おっしゃる通りで、去年の吹奏楽の新聞記事は非常に皆さんから反響があります。新聞で魅力のある内容を発信する記事を是非お作りいただきたい。

山岡会長

例えば旧石器時代、縄文時代なども世界遺産ブームで最近 NHK の番組で増えてきていると思います。登呂遺跡の場合は、弥生時代で農耕社会なので旧石器時代や縄文時代とは時代が異なりますが、現在に通じる農耕社会で、当時の人々が居住した場所と耕作を行った場所が一緒に見つかっていて、小規模な遺跡だけでも当時の集落とその周辺の様子がわかるということで、そうした点が押し出されれば良いと感じます。

上原委員

情報発信の話に関して、新聞のような紙媒体をしっかりと読んで、それで面白いという、学術的興味の方の面白さを感じるパターンと、SNS、YouTubeとかTwitterで面白い、単純に interesting なのかという話です。

私はアトロという活動で登呂の担当でお米を育てて、自分たちで登呂の土で焼いた土器でお米を炊いて食べようという活動をしている。実はコロナで、お米を炊くのはOKだが、料理するのはまずいのではないかという話になった。そうしたら館のほうから「レトルトカレーならいいだろう」と言われて、実は自分たちで焼いた土器で、レトルトカレーを温めた。「土器でレトルトを温めている」最高にカオスな感じの私が発信した写真に、「いいね」がいっぱい付いた。

山岡会長

お湯を土器で沸騰させたのですね。

上原委員

そうです。レトルトカレーと土器という全く相對するものです。今までは実験考古学的にやめておこうとしていましたが、そこに思い切りレトルトという人工の香りが入ったものを取り入れることにより、私の SNS を見てくださっている方が、「おお」って。普段割と真面目な話もしているが、そういうのには全然付かないが、今回はとても「いいね」が付きました。意外性とか、キャッチーな感じの発信の仕方はありだと思います。2番目に「いいね」が付いたのが、女子大学？と一緒に小屋を建てたときに、稲わらでハイジのようにみんなゴロゴロ寝てたという写真です。正攻法でいくのも大事だと思いますが、情報発信の二段構えってというのが大事だと感じました。

堀切委員

技術的な助言ですが、今の話に関連して、新聞記者は季節もののネタを必ず探す。節分、七夕、クリスマス、ハロウィンの時期はネタを必ず探して載せると新聞記事に取り上げてもらう確率が上がると思います。

石亀委員

出前講座について、レプリカを持って、こんなものなんだよと、目の前に出してあげれば、非常に関心を持つと思います。高齢者ほど関心を持つと思います。

山岡会長

事務局の方に質問ですが、最近埋文センターなどで色々出前講座をやっていると。それは博物館の仕事にも含まれているのでしょうか。

事務局

市役所では、各課で市民の要望に合わせた出前講座のプログラムがいくつかあります。出前講座自体が、市全体でやって、どんな事業でも言われれば、出向いていきますよという姿勢でやっています。博物館としても出向いてこういう内容についてお話できますよということで、提案はし、今年度もすでに実施しています。

山岡会長

石亀委員に質問ですが、高齢者の方が自ら博物館の方に、出前講座をお願いするということはあるのでしょうか。

石亀委員

高齢者側からはなかなか手を挙げにくいです。

山岡会長

皆でまとまって何かやるという感じではないのでしょうか。

石亀委員

もっと楽しいことをやっています。歌を歌ったり、お茶会をしたり、健康づくり、早期認知症予防などを主体としている事業です。会場責任者は何を提供しようかなと頭で非常に考えています。高齢者が喜ぶようなアイデアがどこかにないかなと非常に探し回っていると思います。だから、こういうことがあるよということを伝えると乗ってくる可能性がかなり高いと思います。

事務局

補足ですが、館報の33ページの6—3のところに講師派遣、出張講座、市政出前講座というものを2回行っています。この施設でこんな話をしてほしいというようなことで呼んでいただければ、登呂に関することをこちらから出向いでお話します。

石亀委員

市民は市がそういうことをしていることを知らないと思います。

事務局

今、石亀委員からあった出前講座は、特に自治会、町内会からの依頼は、防災が非常に多くて、年間で数百を各区役所でやっています。石亀委員からの提案として、高齢者の方々という形をどう引っ張るかというところの中で、考えさせていただければ非常にありがたいと思います。このご意見も今回の提言書の中で、どういうふうに入れ込んでいくかというのを相談させていただきたいです。よろしくをお願いします。

石亀委員

もう一つ入口としては、静岡市子ども会連合会、市子連、各町内の子ども会を通じて、子ども会の活動の中に入り込んでいくという方法があると思います。小学生が、火起こしが楽しかったという話が出てきています。あともう1つは、当時の弓矢、写真を見てやってみたいという話も出ています。

事務局

地域の実情をもう少し調べさせていただいて、効果的に伝わるような流れを、もう一度構築していくということで、ご理解いただければと思います。

山岡会長

お子さんたちのことは、市役所の中で対応しているのは、違う部署になるのでしょうか。

事務局

PTA と学級・学校関係の、子ども会の関係は、教育委員会という形になっているが、同じ市の中なので、情報共有は取るべきだと思います。

海野委員

令和2年度事業について、有料の観覧者数が入館者に比べて、割合的に減っているのが少ない、というところで、努力されていると思います。山梨とか、修学旅行などに向けて、タイムリーに対応してこられた結果なのかなというふうに感じます。この努力を継続して行って、発信のところで親しみや愛着を持って誇りに思っているからこそ、ホスピタリティを持った、修学旅行生を迎え入れる側の部分がすごく大事になってくるのかなと感じています。

今私たちが話し合っている中での、情報発信のところで、そこをもっと伸ばしていける可能性があるのではないかということ、受け入れる側のホスピタリティを持った市民が、先ほどのハイジの風景とか、そういう温かく心に残る部分が、県外から来ていただいた方たちにあると、またもう一回行きたいという気持ちにつながっていくのではないかと思います。

山岡会長

先ほど上原委員がおっしゃられたように、上原委員が関わられていて、SNSで発信されていて、それで興味を持ってくださる方がいて、市民が誇りに思う、親近感を持つ方が増えると、その方たちがもっと発信してくれるようになるからということでしょうか。

海野委員

発信してくれるようになると、これから巻き込んでいこうということが書かれているので、そのときに大事なのが、外に目を向けた誇りだと思います。

山岡会長

市民の皆さんも発信したくなるようなことをどんどんやるべきだと思いますね。

事務局

今回、山梨とか、近隣の県をまたいでも静岡だったらいいかなというところの、ちょうどそのくらいの時期にヒットした、登呂遺跡は勉強になるねという形のところで、情報発信の一端で、その学校も結構来てくれていた状況も考えられます。それは本当に、海野委員の言われた情報発信を続けてやった成果と考えられます。ただ、そのときにそのチャンスを逃さずに、そこで「来てくれてありがとう」と「登呂で勉強して行ってほしい」というおもてなしの部分がしっかりできれば、もしかしたら次に繋がるかもしれません。そういう部分を、中に組み込んでいただけたら有り難いです。

海野委員

さっきのハイジの風景に、「一緒に寝ころぼうよ」という気持ちを持っているということが大事でした。

堀切委員

「重要文化財」の文言を答申内に入れ込んでほしいです。「シビックプライド」は現地の人がかんばるだけではダメで、外からの評価が大事です。国のお墨付きをもらっている証明として、市民の誇りにつながると思います。

事務局

「学ぶ」の中に入れ込むべきでしょうか。

堀切委員

どこに入れるかはお任せします。

山岡会長

例えば「発信する」の中に入れ込んでもいいと思います。また「特別史跡」という言葉の意味も重要で、日本で何か所しかない、とか最高ランクに位置する史跡であるという説明があった方がよりわかりやすいように思います。

海野委員

重要文化財が1点でもすごいのに775点もある、これを市民の皆さんも発信したくなるような情報として盛り込めればよりよいと思います。

山岡会長

学校とか市の他の課等と連携して発信することが望まれると思いますが、難しいでしょうか。

事務局

学校のカリキュラム等調整が難しいところはあります。市の中で可能な限りは連携したいと思っています。

石亀委員

課長にぜひお願いしたいことがあります。登呂公園を市民の憩いの場として整備してほしいです。川が流れていて、蛍が飛んでいて、グランドゴルフができて、お母さんがたが安心して訪れることができる、そんな場所にしてほしいです。

事務局

公園として魅力づくりで活用することはぜひやっていきたいが、グランドゴルフという文化・芸術と関係性が薄い内容はなかなか難しいと思います。

山岡会長

弓削委員は以前「主体的に」と言っていたが、その単語をどこかに入れられないか、新しい企画を考える楽しさ、という点について確認したいです。

弓削委員

登呂にとにかく来たくなるような企画があるといい。ここに来たら何か面白いことがある。とにかく遊びまくれる。水田やドロん子パークはその代表となる。1の親しむに入りつつ、3の関わるにつながっていくと感じます。

山岡会長

杉山委員のご意見も賜りたいです。

杉山委員

誇りに思う、愛着を持つにはやはり主体的に関わるのが大事。生徒に対する教育の基盤としての仕組みづくりを考えた時に、教員が用意した遊びやゲームよりも自分たちで企画して作ってみた遊びのほうがよりよいものになると気づいてもらうことが2の学ぶと関係すると思います。

山岡会長

木村委員のご意見も賜りたいです。

木村委員

皆さんの意見に強く共感しました。特に今の学生はビジュアル的なものがとっかかりとなって来てくれると思います。例えば青い空、緑の芝生、登呂遺跡などきっかけとなる素材をいかに集めて組み合わせるかが大事だと感じます。ただ、それだけではつながらない、どうやって結びつけていくか、がなかなか意見としてまとまらないです。

事務局

1の親しむの中で、例2に固有名詞が入っているため、特定の業者名を表記しない方法でまとめていただきたいです。民間団体や企業と連携し、オープンカフェの設置などを行うくらいでどうでしょうか。

山岡会長

承知しました。それでは時間になってきたため、ここで議事を終了します。皆さまからいただいた意見をもとに、答申を作成します。皆さまお忙しいと思うので、答申の作成から提出まで私に一任いただけますでしょうか。

委員

了承。

山岡会長

これで、議事を終了し、事務局側に司会進行をお返しします。

事務局 閉会の挨拶

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長 山岡 拓也

委員 堀切 正人
